

教職員のコーナー

「猫」のとりもつ縁

南谷 浩美

うちには今年15歳になった老猫がいる。お世辞にもかわいいと言えない単なる日本猫である。「猫を飼っている」というと血統書付きの豪華なペルシア猫やアメリカンショートヘアなどの洋猫を想像するらしく、わが家の猫の写真を見せると「え？こんな（かわいげのない、どこにでもいるような）猫なの？」という反応が返ってくるが多い。実際、うちの猫は目つきは悪いし、猫らしくないダミ声で鳴くし、まんまるに太って（現在6.2キロ！）体型はトドのようである。その上、性格がおよそ一般的な猫とはかけ離れている。猫特有の警戒心や攻撃性がなく、お気楽でおまぬけな性格である。そのため、おもしろいエピソードがいっぱいあり話題に事欠かない。ベッドで寝ていたら寝返りを打った瞬間に床に落ちたとか、階段を登っていくのに足を踏み外したとか、ネズミを捕まえてきたのに、口から離れた瞬間に逃げられた（ネズミは無傷）とか書き出すときりがない。子どもの頃から猫と暮らしてきた私にとって3代目になるこの猫、それまで自分が持っていた「猫」の概念が打ち破られ、なんておバカな猫なんだろうと少しがっかりした気持ちもあった。

しかし、この猫のおかげで私には多くの友人ができたのだ。「パソコン通信」があった時代に知り合った猫友達である。猫が好きの人が集まる場所があり、そこでやりとりをしていた人たちとおつきあいがパソコン通信がなくなった今でも続いている。猫の話をするだけでなく、近況報告や人生相談をしたり、実際に会ってご飯を一緒に食べたり遊んだりもする仲である。初めてやりとりをしたのは、うちの猫が6歳の時だったので、かれこれ9年のおつきあいになる。

今では、インターネットが一般的になり、誰もが気軽にメールしたりブログやHPを立ち上げたりしているが、私がパソコン通信を始めた頃は、まだまだパソコンが一般的とは言えず、学校の仕事でさえワープロが主流であった。だからHPにコメントを書き込むことなんてことは考えたこともなかったし、eメールでさえ、ごく少数の実際の友人とやりとりだけであった。だから、顔も本名も知らない人同士が、パソコンを通して書き込みをやりとりするというのは、なんとも奇妙で恐ろしい話だと思っていた。ちょうどそのころ、ネット犯罪や出会い系サイトでの問題がクローズアップされはじめ、「ネット=悪の巣」という噂も飛び交っており、インターネットはとて恐い場所だと思っていた。

私が参加していたのは「猫の話、自慢をする」という猫好きが集まる場所だ。最初は、ただROMしているだけだったのだが、おもしろそうな話題が多く、毎日のように書き込みを読んでいるうち、画面の文字だけのはずなのに、パソコンにむかっているその人の人柄が何となく分かるようになってきた。文章の書き方のうまい、下手ではなく、文章からにじみ出てくるものがあるのだ。そのうち自分も発言したくなり、おそろおそろ書き込みを始めた。そんな私の書き込みを温かく迎えてくれたことに安心し、い

つの間にか、毎日のように我が家の猫の話を書き込んだり、レスをしたりするようになった。

書き込みのやりとりが続くと「これを書いている人はいったいどんな人だろう？」と顔を見たいくなるのが人情。やりとりを積極的に行っている人たちを「アクティブ」と言っていたが、そのアクティブ達は関東地方に住んでいる人が多く、岐阜県に住んでいた私は簡単に会うわけにはいかなかった。だが、会うチャンスがやってきた。オフ会が開かれることになったのだ。でも、そのオフ会が開かれるのは東京。行くのに時間もお金もかかるし、何より開催される場所を知らない私。そして、行ってみても、知らない人ばかりで話が合うのだろうか、ひとりぼっちでぼつねんとしていることになるのではないかと、犯罪に巻き込まれたりひどい目に遭ったりするのではないかなど、いろんな悪い考えが渦巻いたが、どうしても会ってみたくなり勇気を持って「参加します」と書き込みをした。

地方の人間にとって、東京はややこしくて敷居の高い街である。初めて行く場所に一人だけでたどり着けるだろうか？顔も知らない人と待ち合わせるのってどうすればいいのだろうかと不安や心配がたくさんあったけれど、そんな私に「大丈夫ですよ。駅まで迎えに行きます。そこから一緒に行きましょう。」と自分の携帯番号やアクセスの方法を詳しく教えてくれたのがTさん。待ち合わせの場所に行ってみると、にこやかな笑顔で迎えられ、自分の車で目的地まで連れて行ってくれ、話が合うようにあれこれ気を配ってくれた。書き込みから感じていたとおりの明るく元気のよい、それでいてよく気がつくステキな女性だった。他のアクティブ達も集まり、まるで長いつきあいがあったかのように話が弾み、楽しい時を過ごしたのだ。後から聞いていたら、実はアクティブ達の中でも私がどんな人が会ってみたいと話題になり、仕事の都合をつけてわざわざ来た人もいたのだそう。

そんなことがきっかけで、今でもつきあいが続いていて、今回、釜山赴任のために上京した時にも集まってくれ、自分のことのように喜んでくれた。もちろん、今でも、メールやブログなどでつながりを持っているし、釜山に遊びに来る計画もある。

うちの猫のことがきっかけで多くの大事な友人を得たのだから、わが家の猫は「福猫」である。書き込む話題が豊富だったから友人も数多く得られたのだ。しかし、振り返ってみると、猫について数多くの方が書き込みをしていた中で、今に至るまで、つきあいのある人たちは、書き込みを読んだときに「この人と仲よくしたい」と思った人たちばかりということに気がついた。実際に会ってみると多少のずれはあるにしろ、書いたものから受けた印象というのはほぼ間違いがないと思った。そして、人柄を知ってから書かれたものを読み返してみると、「やっぱり」と思うことが多い。まさしく「文は人なり」である。

逆に考えると私の書いた文章は読む人にどう受け取られているのか、どんな人だと思われるのかと心配になるときがある。私が猫仲間の書き込みで感じたように、この人と友達になりたいと思うようなものが、文章の中に、にじみ出ているのだろうか。そして、そういったものが感じてもらえるような人になりたいと思っている。猫が取り持ってくれた縁に感謝しつつ、毎日が豊かで幸せな生活のできる自分でありたいと思う。